

3 学年だより

令和4年 12月 20日

荒川区立第五中学校

第3学年 第17号

☆今回は11月から12月にかけて、3年生が取り組んだものについて紹介します。

多彩な仕事を学んだ校内ハローワーク

11月5日、校内ハローワークが開かれました。

16もの職種の方々が五中にお見えになり、仕事について色々な側面からお話ししていただきました。3年生は3回目になりますが、進路選択が目の前に迫った時期ということもあり、皆、真剣に取り組んでいました。



保育士

私の将来の夢は保育士なので、とても勉強になりました。先生方は子どもたちとの接し方や遊びなどたくさんの方について工夫したり頑張っていることがわかりました。今回聞いたことをこれからたくさん勉強したり工夫して、保育士の先生になるために、全力で頑張りたいです。(3-2 ○○○ ○○○)

調理師

私は食べることやおいしそうに食べている場面を見るのが好きで、それに近い調理師という講座を選びました。お話を聞き、調理師は普通に調理をするのとは違うということを知りました。仕事に就くためには必ずきっかけがあり、その過程で認めてもらいたいという思いが大きくなってくのだと思います。そして失敗もあるが、成功するために失敗を恐れず頑張ることが大切だと思いました。(3-2 ○○○ ○○○)

新聞記者

僕が新聞記者スポーツ部を第一希望にしたのは、小学4年からサッカーをやっていたからです。記者の人たちの仕事内容はその日によって活動時間がバラバラなので何時間働いたかわかりません。そして僕たちが今見ている新聞は、昨日作って深夜12時になると新聞を刷って配達員に渡すということがわかり、本当に大変な仕事だということがわかりました。(3-1 ○○○ ○○○)

鉄道会社職員

鉄道会社職員は、電車に乗る人々のために、一人一人の役割をしっかりとこなしているということでした。また、コロナの中人手不足だったり、そういう中でも頑張っていると聞き、すごいなと思いました。

(3-1 ○○○ ○○○)

体験者から聞いた薬物の怖さ

11月25日、「薬物乱用防止教室」が開かれました。今回は「東京ダルク」の方々に、お話を伺いました。薬物を使用した経緯やその後の体や生活の変化についての生々しい体験談に、薬物の危険性をあらためて実感しました。

以下は、生徒の感想です。

実際に薬物を使った講師の方の体験談を聞いた時、今まで聞いてきた薬物の話の中で一番リアルで改めて薬物の恐ろしさを知りました。自分の性格をも変えてしまい、今まで積み上げてきた努力が、薬物乱用によってすべて水の泡になってしまうと考えたら、絶対に使いたくないと思いました。今日のお話から、一時的な感情のせいで人生を台無しにしてしまうということを心に置き、自分に進めてくる人や乱用しようとしている人などにしっかり伝え、薬物に苦しむ人をなくしていきたいです。(3-1 ○○○ ○○○)

自分は薬物なんてやらないし！みたいな事を思っていましたけど、実際に体験された人のお話を聞くことで、自分はやらないと思っていた事も友達関係を壊したくないと思い、やってしまうのではないかと少し不安になりました。たった一回使用してしまうことが抜け出せなくなる事がどれだけ恐ろしいことなのか、聞いて少し驚きました。幻覚や幻聴だけでなく、家族や友達、他人まで危害を出し、傷つけてしまうことがあるので、薬物は何があっても絶対に手を出してはいけないものであることがわかりました。(3-2 ○○○ ○○○)

日本の伝統文化に触れた

和楽器体験



12月5日、6日の二日間、荒川区邦楽連盟の稀音家同門会から、稀音家 糸恵先生と東音 安田 佳代先生がおみえになり、3年生対象の三味線教室が開かれました。最初は音を出すのにおっかなびっくりだった生徒たちも、2日目には、「かえるの歌」や「かごめ」が弾けるようになり、もっとやりたいなど意欲的な声も聴かれました。

写真は当日の授業風景です。真剣に取り組んでいる様子がよくわかりますね。